

発寒ひかり  
保育園だより

2020年  
11月号

巻頭言

「新型コロナウイルス」によって、私たちの生活は一変しました。

当園でも給食の場面では、当分の間、バイキング形式をやめて、保育士が取り分けるようにし、座席が対面や密にならないようテーブルを増やしたり、消毒を徹底するなど様々な感染予防対策をとっています。

そんな中でも、子どもたちは、例年通り園の畑で色々な野菜を育てました。キュウリやミニトマト、ピーマン、大根、人参、さつまいも等々。目を輝かせながら、「給食で使つて〜」と、小さな手に採れたての野菜をたくさん持ってきてくれました。ミニキャロットは、グラッセにしたり、子どもたちが育てた野菜と購入した野菜の区別がつくように切り方を変えて料理に入れたり、野菜の特徴や栄養をクイズにしたり、少しでも喜んで食べてもらえるよう保育士とも連携しながら工夫しています。

「これ、いちよう切りだから自分たちで採ったものだね」「この野菜は嫌いだけど今日はおいしい！」など、食事中に楽しそうな声が聞かれています。

「ウイズコロナ」の時代、免疫力を高め感染症予防にもつながる「食べること」は、さらに重要となります。当園での食農育の体験や、毎日お友だちと一緒に食べた給食が、心身ともに健やかな成長を促し、将来的に子どもたちの生きる力となることを信じ、今日も「安心安全で、おいしい給食」を、心をこめて作っています。

子どもたちの元気と笑顔に、支えられながら。

栄養士 中明 緑